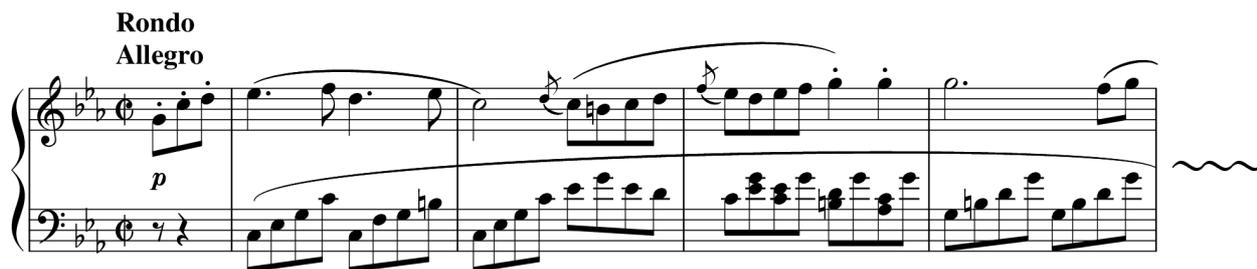


Ex.2 ピアノソナタ第8番 ハ短調 『悲愴』より 第三楽章 (L.v.ベートーヴェン)



「ベートーヴェン 悲愴 第三楽章」等で検索して聴いてみてください。

こちらは、どう聴いても完全に『亡き王女の為のセプテット』です(笑)。ZUN氏の意図か、レミリアがお嬢様だからクラシック風にというリスペクトの意志なのでしょうか。

それはともかく、こちらは暗くどんより( ͡° ͜° )という雰囲気にも聴こえますね。

これが、「長調の音楽」と「短調の音楽」との違いです。

とりあえず長調と短調の違いが、音楽を聴いた時に、明るい( ^o^ )か暗い( ͡° ͜° )かで区別がつくようになれば良いでしょう。

さて、明るい音楽と暗い音楽、つまり長調と短調ですが、この両者の違いは、どのようにしてつけられるのでしょうか？

それは、音楽に使われる「音階」の違いによって区別がされます。

「音階」という言葉が出てきましたが、音楽に詳しくない人でもなんとなく知っている音階があります。

そう、「ドレミファソラシド」です。

音階とは、このようにある音の集まりを音高順に並べたものです。

Ex.3 長調の音階



私達が一番良く知っている音階です。

この音階は長調に属します。実際に鳴らしてみると、確かに明るく響きますね。

つまり、この「ドレミファソラシド」という音階は、長調の音階ということになります。これは、数ある長調の音階の中でも最もシンプルな例です。

一方で、暗い属性の音楽として使われる短調の音階とはどういうものでしょう。

Ex.4 短調の音階



この音階は短調に属します。実際に鳴らしてみると、長調の音階に対して暗く響きますね。

そういうことで、「ラシドレミファソラ」という音階は、短調の音階ということになります。これ

は、数ある短調の音階の中でも最もシンプルな例です。

長調の音階である「ドレミファソラシド」と、それに対する短調の音階である「ラシドレミファソラ」ですが、ピアノの白鍵上において、ドから初めてドで終わるか、ラから初めてラで終わるかという違いだけで、音階の明るい・暗いの違いが生まれるのは、人間の感覚の不思議な話です。

以上で西洋音楽には、「長調」と「短調」という、明るい音楽か暗い音楽かの属性の違いがあり、その属性の違いは音階によって区別されることを述べ、「長調の音階」と「短調の音階」の、それぞれ最もシンプルな例を紹介しました。

### 長調の音階（例）



### 短調の音階（例）



長調の基本は「ドレミファソラシド」、短調の基本は「ラシドレミファソラ」という2つの音階をまず覚えておきましょう。

## ・ 2 長調について

先程は長調と短調について説明しました。それでは、長調と短調についてもう少し詳しく説明していきます。

### Ex.5 ハ長調の音階



先ほど出てきた、最もシンプルな長調の音階の例です。

長調の音階と呼んでいますが、これを略して「**長音階**」と呼ぶことが多いです。

これは、「ドレミファソラシド」から成り立つ長音階ですが、これは「**ハ長調の音階**」という固有名詞で呼ぶことができます。

ハと言うのは、日本式音名「イロ**ハ**ニホヘト」の**ハ**で、イタリア式音名「ラシ**ド**レミファソ」でいう**ド**に相当する音です。

つまり、「ハ長調の音階」とは、ドの音から始まる長調の音階（長音階）ということですね。

ドの音から始まると言いましたが、ではドの音から始まらない長音階があるのかというと、あります。例えばシから始まる長調の音階もありますし、ファから始まる長調の音階もあります。

## 第貳章 東方曲の基本的な音階 六抜き短音階

東方曲の基本は、短調で作られていることを述べました。なので、これからは特別な断りがない限り、長調による少数の東方曲を除いて、短調で作られた多数の東方曲を前提に説明していきます。

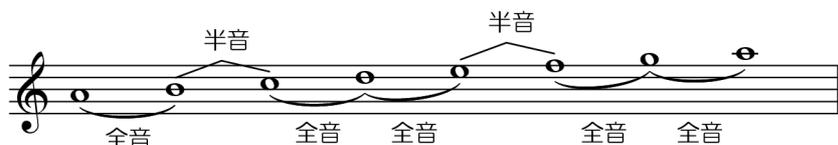
我々が今日親しんでいる多くの音楽は、メロディ（旋律）、ハーモニー（和声）、リズム（律動）による「音楽の三要素」から出来ています。そこで本書は第一巻の旋律編なので、メロディ・ハーモニー・リズムの内、旋律であるメロディの要素だけに絞って説明していきます。

### ・ 6 ファがない？

東方の楽曲のメロディには、いかにも「東方っぽいなあ」と感じさせられることが多々あります。「東方っぽい」とはということなのかは、人によってそれぞれ意見が異なるかと思いますが、メロディにおける「東方っぽさ」には、いくつかの要因があると考えられます。これからその要因の一つを述べていきます。

しつこいようですが、イ短調の自然短音階を掲載します。

#### イ短調の自然短音階



イ短調がイ短調である為には、主音がラの音であって、使っている音が「ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ソ」の7音から構成されている必要があります。

それでは、以下に用意した、イ短調に移調された状態の東方曲の譜例をご覧ください。

#### Ex.23 『竹取飛翔 ~ Lunatic Princess』 東方永夜抄 ~ Imperishable Night. より (原調：へ短調)



Ex.24 『ハルトマンの妖怪少女』  
 東方地霊殿 ～ Subterranean Animism. より (原調：イ短調)

イ短調の主音

Ex.25 『感情の摩天楼 ～ Cosmic Mind』  
 東方星蓮船 ～ Undefined Fantastic Object. より (原調：ホ短調)

イ短調の主音

調号にはbや#が1個もなく、メロディはラで終止しているので、正真正銘のイ短調のメロディです。

しかし、この3曲の譜例には、ある共通点があります。それぞれの譜例のメロディに、何の音が使われているかを、一曲ごとに寄せ集めてみて下さい。臨時記号も調号もついていないので、ソ#とか、シbのような音はいずれの曲にもありません。

もしかしたらあなたは、イ短調なので「ラ・シ・ド・レ・ミ・ファ・ソ」の全ての音が出ているはずだと考えるかもしれません。

しかしどうでしょう？

譜面の読み間違いさえなければ、上記の3曲は、全て「ラ、シ、ド、レ、ミ、ソ」の6音からメロディが出来ています。

あら、ファの音がありませんね？

なり、これが特性音「ドリアの6度」です。

それでは、次に全てイ短調に移調した、ドリアの6度が使われている東方曲の譜例を掲載します。

**Ex.47 『U.N.オーエンは彼女なのか?』**  
**東方紅魔郷 ~ the Embodiment of Scarlet Devil. より (原調：変口・口短調)**

**Ex.48 『幽霊楽団 ~ Phantom Ensemble』**  
**東方妖々夢 ~ Perfect Cherry Blossom. より (原調：嬰ハ短調)**

**Ex.49 『妖怪の山 ~ Mysterious Mountain』**  
**東方風神録 ~ Mountain of Faith. より (原調：イ短調)**

一部分でファの#が使われていることが分かるでしょう。少し全体の音楽の空気から一音だけ浮いている雰囲気がありますね。

今までに同じく、ファ#が使われているところ以外はファの音が一切出てこないのです。これも基本はイ短調の六抜き短音階でメロディが出来ており、部分的にドリアの6度の音を借用しているという解釈が出来ます。

ここで勘違いしていただきたくないのが、これらのメロディはドリアの6度をドリア旋法から一時的に借用しているのであって、曲自体が完全なるドリア旋法から曲が出来ている訳ではないということです。

Ex.66 『碎月』  
 東方緋想天 ～ Scarlet Weather Rhapsody. より (原調：ハ短調)

(ブルーノート)

イ短調の主音

(後半のソロ部分)

イ短調の主音

そして次も同じくあきやまうに氏のアレンジによるものです。あきやまうに氏はこの手のアレンジが得意なのでブルーノートの例に取り上げやすく、またこれ以外の楽曲でもブルーノートを聴くことは多いです。

Ex.67 『おてんば恋娘』  
 東方非想天則 ～ 超弩級ギニョルの謎を追え より (原調：ロ短調)

(もしくは第七音の導音化)

以上の譜例は、ブルーノートの臨時記号である#やbがどちらを使用するかを決定するにあたって、ブルーノートを経由して上行するか下行するか、あるいは和音を考慮した上で相応しい臨時記号を選択しています。

如何でしょうか。ブルーノートは黒人発祥の音楽だけに留まらず、日本のポピュラー音楽においてもしばしば用いられるので、日本人に馴染みの薄い音という訳ではありません。ここでは、ブルーノートが用いられる東方曲を改めて分析して聴いて、ブルーノートの独特の存在を感じ取っていただ

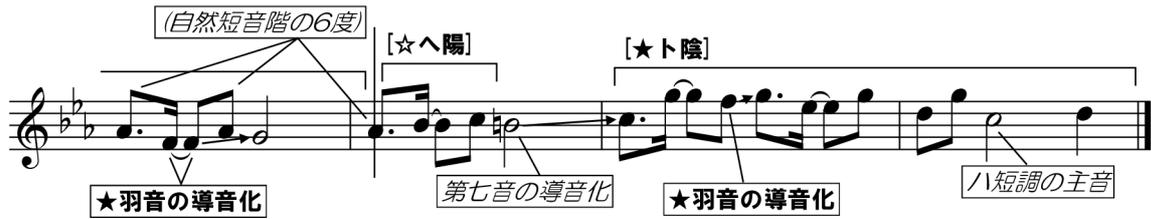
このメロディは、陽旋法において「法則 3a」の「陽商の並存」、陰旋法において「法則 3b」の「陽商の借用」が使われているのが特徴です。

2 段目 2 小節目、3 段目 2 小節目、4 段目 2 小節目にある「ファ#→ソ」の音は、「陽商の並存」ですが、これを「ソ→ソ」（基陽の商）に、あるいは「ファ#→ファ#」（応陽の商）に音を変更することで、この小節は日本的な響きに還元できます。

サビの部分です。ここはへ短調で、大部分が「法則 2a」に当てはまるト調陰旋法でメロディが出来ているのですが、メロディの終止部分は西洋音楽の調性の支配に習ってへ短調風に、つまりへ調陽旋法に転旋しています。

「陽旋法における長三度の特殊な用法」は、「ミ $\flat$ →ファ→ソ」の真ん中のファを省略して「ミ $\flat$ →ソ→ファ」とファを後出しにしているものです。

**Ex.154 『広有射怪鳥事 ～ Till When?』  
東方妖々夢 ～ Perfect Cherry Blossom. より**

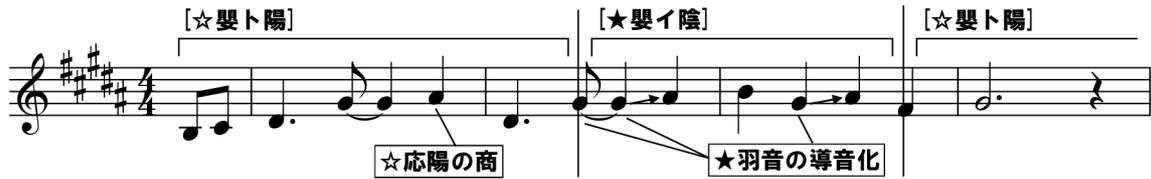


このメロディは、4小節目までは日本風味のメロディに仕上がっています。しかし5～6小節目では、転旋が起きているとは言え、この2小節間にはファ・ソ・ラ・シb・ドという日本の音階には存在しない七音音階を想起させる音要素が揃ってしまっている為、また法則1に当てはまらない「へ調陽旋法」を使っている為、日本的な響きからは離れたメロディになっています。

**Ex.155 『幽雅に咲かせ、墨染の桜～Border of Life』  
東方妖々夢～Perfect Cherry Blossom. より**



これはAメロの冒頭部分ですが、これは以下のようにも解釈できます。



どちらが正解かは重要ではありませんが、少なくともこのメロディは、日本的な旋法を活かしたメロディとして完成していることは否めないでしょう。



The image shows a musical score in 4/4 time, key of B-flat major (two flats). The score is divided into five systems, each with various annotations in Japanese:

- System 1:** [★ハ陰] (over the first measure), ★陽商の借用 (over the first two measures), [★変口陽] (over the last two measures), ★羽音の導音化 (under the first measure), ☆応陽の商 (under the second measure), ☆陽商の並存 (under the last two measures), and a triplet of eighth notes (3).
- System 2:** [★ハ陰] (over the first measure), [★変口陽] (over the last two measures), ★羽音の導音化 (under the first measure), and ★羽音の導音化 (under the last measure).
- System 3:** [★ハ陰] (over the first measure), [★変口陽] (over the last two measures), ★羽音の導音化 (under the first measure), ☆応陽の商 (under the second measure), ☆陽商の並存 (under the last two measures), and [★変ホ陽] (under the last measure).
- System 4:** [★ハ陰] [★変口陽] (over the first two measures), ☆応陽の商 (under the first measure), ☆陽旋法における長三度の特殊な用法 (under the second measure), and ☆陽旋法における長三度の特殊な用法 (under the last measure).
- System 5:** [★変ホ陽] (under the first measure) and 変口短調の主音 (under the last measure).

あきやまうに氏による名曲、『東方萃夢想』です。

この曲の美しいところは、サビ部分のメロディが、ほぼ統一された陽旋法で作曲されている点です。陰旋法に転旋するのは4段目1小節目のみ。ドの音をシ♭にすれば、より良い意味で田舎くさいメロディになるのではないのでしょうか。ここは「陽商の並存」である可能性もあるのですが、「ハ調陰旋法」の終わりと「変口調陽旋法」の始まりが被っているように、「ド→レ♭→ド→ラ♭」という短二度と長三度のコンビネーションによる音構造は陰旋法にあるものですし、同時に「ド→ラ♭→シ♭」という長三度を用いた特殊な用法は陽旋法独自のものです。その、陽と陰の二面性があることを示すべく、敢えて「陽商の並存」という分析はしませんでした。私の耳においては、陰旋法に傾くこの小説だけがメロディに雲がかかったような趣を感じます。

もう一点特筆すべき点があります。それは「陽旋法における長三度の特殊な用法」の使い方です。これは、4段目1小節目のように長三度が出てくる時は主音に向かうことが多いのですが、必ずしも主音に向かう時だけに限りません。それは3段目3小節目、5段目1小節目の「ファ→レ♭→ミ♭」という音の動きに現れています。仮に、ここだけミ♭の音を主音と考えると、ここは変ホ調陽旋法の動きということになりますが、この動きは変口調陽旋法にも含まれるので、譜例で示しているように、旋法が重複しうるといふ解釈が出来ます。

陽気ながら寂しさもある、純粹で美しい日本的な旋律に仕上がっていることが大きな魅力のメロディです。

### 43 東方永夜抄より

#### Ex.158 『千年幻想郷 ～ History of the Moon』 東方永夜抄 ～ Imperishable Night. より

この曲で特筆すべき点は、1段目3小節目の「ドリアの6度」にあります。この小節は、一時的に転調しているとも考えることは可能ですが、仮にそうではないと仮定しましょう。

嬰ト短調におけるミ#の音は、ドリア旋法からの借用である「ドリアの6度」で間違いありませんが、これは同時に、「法則 2a」における陰旋法の徴音、ここでは嬰ト短調における嬰イ調陰旋法（ラ#シレ#ミ#ファ#ラ#）の徴音（第四音）とも言えます。「ドリアの6度」は特殊な音であると事前に説明したものの、「ドリアの6度」である音は見方を変えれば、「東方曲における旋法の法則」の「法則 2a」の中に既に含まれている音だったのです。

東方曲でドリアの6度が度々出てくるのも、「法則 2a」によって使われる陰旋法と関わりが深いのかもかもしれません。<sup>20</sup>

そしてこのAメロは、先の『東方萃夢想』のサビ部分にも似たような雰囲気を漂わせています。基本的には陽旋法の前向きで堂々たる旋律に仕上がっています。

20 「ドリアの6度」は、実は中国伝統音楽との関係性も見逃せません。五声の項で紹介した、中国伝統音楽の「呂音階」は「ドレミソラド」で、これはドから完全五度を堆積し続けた時に得られる最初の4音（ド-ソ-レ-ラ-ミ）を並べ替えたものです。しかし、この完全五度の堆積を更に続けるとド-ソ-レ-ラ-ミ-シ-ファ#となり、並べ替えると「ドレミファ#ソラシド」の七声になります。そして中国伝統音楽では、ファ#を使う代わりにファの音は使用しないそうです。東方曲は短調なので、先ほどの七声をラから始めた「ラシドレミファ#ソラ」で考えるべきですが、東方曲のメロディでもファ#は時折使用しファは使わないという共通性から、日本の旋法のみに限らず、「上海”アリス幻楽団」と言うように、中国伝統音楽との関係性もないとは言いきれないように思います。